

手と手をつないで

やまぐち ひろゆき
山口 裕之

No.361

(マザー・アース人権啓発研究所主宰)



厳しい時期でも、誠実に生きたい

新年度がスタートし、それぞれの地域・職場で動きが始まったところですが、新型コロナウイルス感染がここまで全世界に甚大な影響を及ぼすようになることを、昨年ほどだけの人々が予想したことでしょう。

各国の各分野のリーダーから一人ひとりの市民までが感染の終息をめざしてこれまでさまざまな取り組みを行い、辛抱を重ねてきました。この新型コロナウイルスによる感染者・死者が世界中で増加する中で、未知に対する恐れや無力感・焦燥感が私たちに重くのしかかってきました。また、学校をはじめ社会教育、文化的・体育的活動や各種のイベントなども制限され、産業・経済の停滞とともに厳しい生活状況に追いやられた人も数知れません。

一方で、遠くの困難な状況にいる人や近隣で不自由な思いをしている人に手をさしのべ、支え合おうとするさまざまなあたたかい取り組みが国境を越えて各地で展開しています。

○新型コロナウイルス感染と私たちの意識

このような状況の中で、私たちの生き方が問われるような事象がたく

さん生きてきました。

①「〇〇国の人、〇〇県の人」とウイルス感染当事者以外の人もひとまじめにして避け、排除し、中傷しようとする。

②感染者や関連施設に嫌がらせの電話がかけられたり、デマがふりまかれたりする。

③被差別の立場にある当事者の人々に対して、新型コロナウイルス感染とつなげた強烈なヘイトスピーチや差別的な電話がかけられる。

④意図的に流されるフェイクニュースやデマにより、一部の商品の買い占め・獲得行為が過熱し、品切れや価格高騰がおこる。

⑤新型コロナウイルスを口実にした悪質な商法や詐欺事件が急増する。

⑥欧米において、アジア系の人に対するバッシングや意図的な攻撃が行われる。

「コロナ疲れ」、先の見えない社会不安が増大するなかで、私たちの心までが感染してはいないでしょうか。周囲にひそかに分断と排除が行うにはいけないでしょうか。不安やストレスのはけ口として、隠れていた差別意識が表面化し、マイノリティの人々に対する差別やヘイトが正当化されていく状況はないでしょうか。

うか。

私たちの意識・感情の中に、地域の風潮としてこのようなものはないかどうか、再度向き合ってみてほしいものです。



○私たちの思考が未来を創る

これからさらに新型コロナウイルス感染を終息させる行動を強化するとともに、かつてない状況の中で私たちの人権に関する意識はどうかにかいてみていきたいと思います。合理的で誠実な考え方とつながり合う力で私たちの貴重な財産である人間性と地域社会を守っていきましょう。この時期だからこそ、SDGs（エスディージーズ；国連の持続可能でよりよい世界をめざす開発目標）でうたわれてる「誰一人取り残さない」という理念を大切に燃え上がらせたいものです。